

# 第5回第3次かほく市総合計画審議会

## 議事概要

日 時：令和8年1月27日（火）9:55～11:20  
場 所：かほく市役所2階 議会会議室

1. 開会
2. 審議案件について
  - ①第3次かほく市総合計画「基本計画（案）」について
  - ②今後のスケジュールについて
3. 事務連絡
4. 閉会

### 委員名簿

整理番号	選出組織・団体	職	氏名	出欠
1	かほく市商工会	会長	南 春夫	出
2	石川かほく農業協同組合	代表理事専務	村井 一宏	出
3	石川県立看護大学	教授兼附属図書館長 DX推進委員会委員長	小林 宏光	出
4	金沢学院大学附属高等学校	副校長	谷内 正樹	出
5	かほく市町会区長会連合会	会長	西田 省三	出
6	かほく市女性協議会	会長	松村 千恵	出
7	株式会社 北國銀行	公務部部長	山田 泰輔	出
8	金沢公共職業安定所	所長	今町 聡	欠
9	株式会社 P F U	取締役常務執行役員	宮内 康範	欠
10	かほく市社会福祉協議会	常務理事	越井 謙一	出
11	かほく市	副市長	竹本 重久	出

## 1. 開会

## 2. 審議案件について

### ①第3次かほく市総合計画「基本計画（案）」について

- ・事務局より、第3次かほく市総合計画「基本計画（案）」について、会議資料に沿って説明。

#### 【質疑・意見交換等】

##### (会 長)

- ・9個の重点戦略それぞれに具体的な主要施策があり、総計で39個ある。確認したい事項について、積極的なご意見をお願いします。

##### (委 員)

- ・全体としてこの計画は非常に良く出来ていると感じる一方、SDGsに関して計画内で触れていない。何かしら表記してはどうか。また、計画内の各所で「ウェルビーイング」や「デジタルアーカイブ化」などの英語のカタカナ表記が見られるが、誰が見ても分かりやすい表記にするべきではないか。そして、主要施策の「(4-3) 防犯対策の推進、消費者安全の強化」における実施方針の③「市民に消費者教育を行う上で、特に高齢者など、年齢に応じた記憶に残る啓発事業や消費者教育に取り組みます」の表現については、上から目線に感じるので、言い回しを変えてはいかがか。

##### (事務局)

- ・1点目、SDGsについては主要施策ごとに関連するSDGsのアイコンを表示する予定である。2点目の分かりにくい英語のカタカナ表記については、注釈をつけたり、もう少し分かりやすい表現に訂正するなどして対応する。3点目の文章の表現については事務局で確認し、市民により親しみやすい言葉遣いに訂正する。

##### (委 員)

- ・主要施策の「(2-4) 高齢者福祉の充実」において、現在福祉職員の人材不足が深刻化していることから、課題の中に「福祉人材の確保」に関する内容を加えてはいかがか。また、実施方針の⑤「高齢者を取り巻く医療・福祉の環境が変化する中、高等教育機関、民間企業等の多分野との連携や・・・」の、“高等教育機関”が石川県立看護大学を指しているのならば、かほく市と石川県立看護大学との包括的連携にも触れて表記してはいかがか。さらに、主要施策の「(2-5) 障害福祉の充実」の課題として「障害のある人の親亡き後の支援」を追加することはできないか。

##### (事務局)

- ・ご指摘の3点については事務局と担当課で検討させていただく。

(委員)

- ・学校教育に関して、いじめ不登校への対応や、一人ひとりに応じた個別具体的な学びの提供、キャリア教育の充実、部活動の地域移行、地域の教育力の活用等、現代の教育における課題に応じた取組がしっかり盛り込まれ、方向性がしっかり出されていて非常に良いと感じる。かほく市には、コミュニティ・スクール制度もあり、小中学校がそれぞれの実情に応じて特色ある創意工夫した取組ができるようになっており、今後も保護者と生徒の満足度が一層あがることを期待したい。

2点目、生涯学習に関してはどうしても講座の開催、つまり「学びの場の提供」に目が行きがちだが、人づくりの視点も大事だと思う。例えば、講座で学んだ方が講師になり次の人に伝えていくという、いわゆる学びの循環が起こる施策の展開を期待する。

(事務局)

- ・貴重なご意見感謝する。計画に肉付けできるか検討する。

(委員)

- ・学校教育に関しては、教員の負担が大きく離職率が高いと全国的に報道されているが、教員の業務の見直しをしていく中で、教育現場の現状に目配りすることも大事な視点だと思う。

(委員)

- ・人口減少時代の総合計画になると見込まれる。いろんな施策の中でDXや効率化、民間の知見の活用という単語が見受けられるが、次の10年は世の中の変化が更に速くなるので、計画内への記載もあるが、これまでのやり方を抜本的な転換をしていく必要がある。また、その世の中の変化に対応するためには、10年のスパンで目標を達成するのではなく、むしろ前半の段階でやり切ってしまうくらいのスピード感をもって取り組みを進めてほしい。民間の知見の活用については、世の中の変化に対応しやすくなったり、民間委託を活用することで災害があった際などにも機動的に動くことができるという部分があるため、重点的に進めていってほしい。

また、かほく市は、現在は県内でも人口が増加している数少ない市であり、住みやすさの評価も高いところではあるが、次の10年間は人口が減ることも想定される。そのような中では「教育」が一つの強みとなるのではないかと思う。社会に役立つ価値ある人材を育成できるような市になると、人材が市外に転出したとしても、今度は「教育」を求めて転入してくる人が現れるという好循環が生まれてくるのではないか。そういった視点もぜひ施策にとり入れていただけたらと思う。

(事務局)

- ・総合計画内での反映とするか、または個別計画での反映とするかは検討したい。

(委員)

- ・委員の意見に同感で、かほく市は現在は人口が増えているが、いつまでも続くわけではないことを考えると、人口が減り始めてからではなく、増えている今だからこそできることがあるはずという視点が大切である。

(委 員)

- ・最近市内でハウスメーカーによる建売住宅の建築をよく見かける。市の方で、アパートも含めて現在どれだけの人が入居しているか等の情報を把握しているのか。

(事務局)

- ・市の方では、全数は把握できていない。

(委 員)

- ・主要施策の「(5-3) 公共交通の利便性向上」の中の実施方針において、市町を越えた公共交通機関の相互乗り入れを進めるとの記載があるが、これは既に進めているのか。どのようなイメージなのか教えてほしい。

(事務局)

- ・石川中央都市圏の枠組みで策定している「石川中央都市圏地域公共交通計画」の中に、将来的に相互乗り入れを進めるという表現があり、それを総合計画にも引用している。

(委 員)

- ・津幡町や内灘町などの近隣自治体とではなく、石川中央都市圏内の広域のイメージか。

(事務局)

- ・広域ではなく、あくまでも相互乗り入れによって石川中央都市圏内の公共交通ネットワークを構築していくというイメージを持ってもらいたい。

(委 員)

- ・現在の市営バスと福祉巡回バスの相互乗り入れは考えているのか。

(事務局)

- ・具体的には相互乗り入れは考えていないが、市内の公共交通ネットワークの再構築の必要性は認識している。

(委 員)

- ・計画全体が教育や健康、子育て支援など、市民である生活者目線で十分に記載されていると感じる。反対に「(7-2) 商工業の振興」の部分は、あっさりとしているように感じる。産業基盤がないことには回りまわって市民生活が成り立たないので、今ある産業を支援することももちろん大事だが、新たに大手の企業を誘致するなどの産業振興策については記載しないのか。

(事務局)

- ・総合計画の下位の計画である「かほく市デジタル田園都市構想総合戦略」の中で、企業誘致の推進など産業振興について触れている。総合計画内での商工業分野が薄くなっているのは、現状、市でも単独の産業振興策はあるが、多くが国や県が行っている商工業振興策に付随して行っているためであり、今後は市単独での商工業振興策も検討していく必要があると感じている。

(委 員)

- ・商工会としても、工場や会社、個人店へアプローチをしている。高松のPFU P r o D e

Sセンターの近くでは、どんどん大きな会社が本社機能を移しているが、小さい個人店は店じまいしていく傾向にあるので、商工会としても市と連携して対策を進めていかなければと感じている。

逆に古民家を改装して飲食店を営む人など、個人的に小さいお店を開店する人も増えてきている。少しずつではあるが、商工業の賑わいになっているので長い目で見て頂ければと思う。

(委員)

- ・公共交通の利便性向上について、自身がまだ運転できているからいいが、将来的にはいずれ公共交通のバスのお世話になることになる。しかし、たまに市内でバスを見かけると、人が全然乗っていない状態で運行しており、それでは経費もかさむだろうし、本当に難しい問題だなと感じている。

(委員)

- ・公共交通の場合、ほとんど乗っていないからとはいえ、バスを必要としている人がいる限り、すぐに廃止できるわけではないし、そのバランスが、行政的には一番難しいところと思うが、やはりバスの運用は財政面で痛手なのか。

(事務局)

- ・経費がかかる部分はもちろんあるが、ドライバーの確保も大きな社会問題となっており、かほく市も例外ではない。なんらかの形で公共交通の再構築しなければならないタイミングであり、市としての重要な課題であると認識している。

(委員)

- ・他の項目でもあったように全般的にはデジタル化やDX化の推進ということで、スマホの操作一つでバスが来てくれるというようなことが発展したテクノロジーのおかげでできるようになる。合理化しつつ交通弱者への支援を途切らせないというあたりのバランスを見ながら出来ることをやっていく。ぜひ、新しいテクノロジーも取り入れつつ、効率的な運用をしてほしい。

(委員)

- ・理想的な目標がたくさんあるが、実現してこそ価値があると思う。総合計画の完成後は、それぞれの部署で目標に向かって進んでいくことになると思うが、問題はその目標がいかにして実現されていくかということである。途中の進捗状況や評価、間違いなく実行されているかどうかのチェックは部署ごとにするのか、それともどこかが一元して管理するのか。

(事務局)

- ・総合計画自体には数値目標を設けていないが、「かほく市デジタル田園都市構想総合戦略」の中において数値目標を設定している。総合戦略の進捗状況については毎年担当部局から達成状況を提出してもらい、それを企画課でとりまとめたうえで、議会へ報告するという流れで進捗状況に応じた評価や分析を行っている。

(委員)

- ・総合計画が策定された後は議会の方で厳しくチェックされるということか。

(事務局)

- ・議会でのチェックは総合計画自体の進捗に関してではなく、より実効性のある総合戦略の評価というステージにおいてなされているというイメージである。

②今後のスケジュールについて

- ・事務局より、今後のスケジュールについてについて、会議資料に沿って説明。

【質疑・意見交換等】

- ・意見なし

3. 事務連絡

4. 閉会

以上